

4/22 三高生が「ごみ問題」について学ぶ

地域の「ごみ問題」解決について考える

県立三戸高校（富田義明校長）の生徒 112 人は、総合的な探求の時間に「SDGs」をテーマとした持続可能なまちづくりに取り組むにあたり、「リサイクルとごみ問題」について学びました。

講義では、町住民福祉課職員が、ごみ排出量や、ごみ減量のために行う活動の計画をはじめ、ごみ減量の大切さや、生ごみの上手な捨て方などについて話し、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。その後、生徒たちは「一般廃棄物の排出および処理状況等について」という内容で行った調査結果を発表しました。

関根美空さん（3 年）は「他人事ではなく、自分たちの問題としてごみ問題に取り組んでいきたいです」、山田季京さん（3 年）は「リサイクルしようという思いだけでなく、知識をつけて実践していくことが大事だと感じました」と話し、ごみ問題について理解を深めました。



感想を述べる生徒の皆さん



苗を植える子どもたち

4/24 さんのへ農業小学校開校式

農業をとおして成長していく

さんのへ農業小学校第 11 期生の開校式が中央公民館で行われました。町内の小学生 19 人は、これから畑や田んぼなどの農作業体験や販売体験などを通じて、食や農業への理解を深めていきます。

栗生正志校長は「普段皆さんが通っている学校と違い、農業のことをいろいろ学びます。上級生は下級生のことを気にかけてながら、1 年間頑張っていきましょう」と話し、松尾和彦町長は「活動をとおして農業に興味を持ち、将来は三戸地域の農業を担ってくれたら嬉しい」と入学生へのあいさつを述べました。

中村紅子さん（小中一貫三戸学園三戸小学校 6 年）は「雨にも負けず、風にも負けず、元気に活動します。1 年をとおして、わたしたちの成長を見守ってください。1 年間よろしくお願いします」と参加児童を代表してあいさつを述べました。

式終了後は、第 1 回目の授業として、公民館近くの畑にジャガイモやブロッコリーなどの種や苗を植えました。

5/15 地域の有志が馬暦神社などを清掃

きれいな景色をみてもらいたい

県の重要文化財に指定されている「唐馬の碑」がある馬暦神社と住谷橋三戸中央病院敷地内のひまわり花壇の清掃奉仕活動を地域の有志 12 人が行いました。進学や仕事で町外にいる人たちが夏休みやお盆などで帰省した際、きれいな景色を見てもらいたいという思いから実施されました。活動に参加した竹林愛子さん（79 歳）は「きれいな花を咲かせて、神社の前を気持ちよく通ってほしい」と話し、草刈りや花植えなどの環境整備に汗を流しました。



神社前に花を植える参加者